

大学生の学習成果(ラーニング・アウトカム)(2)

—就業との関連から—

山田剛史・森 朋子[#]

(島根大学 教育開発センター)

1. 問題と目的

教育機関の説明責任が強く問われる時代が到来し、「教育の成果」を点検・評価することが多くの高等教育機関の中長期計画における具体的な取り組みの課題として明記されるようになった(吉本, 2007)。文科省では、先般中教審から「学士力」なる学習成果の参考指針が提起されるなど、教育の質保証を出口管理の徹底と絡めて議論的となっている。そこで、山田(2008)は現存する様々な学習成果指標を踏まえて、大学生の学習成果(ラーニング・アウトカム)尺度を作成し、卒業生調査を通じてその構造を確認している(山田・森, 2008)。本発表では、そうした学習成果の獲得と卒業後の就業生活との関わりに焦点を当てて検討を行う。

2. 研究方法

(1)調査時期：2007年11月下旬～12月下旬

(2)調査対象：2003～2005年に卒業した国立S大学の卒業生のうち住所が判明している者1298名に配付し、回収された171名(回収率13.2%)。

(3)調査内容：①就業状況に関する質問群(a.現在の職業満足度とその理由, b.現在の就業状況, c.過去の離転職経験の有無), ②大学生の学習成果(ラーニング・アウトカム)尺度。各項目に対し, a.授業全体を通じて, b.授業以外での活動を通じて身についた程度を4件法で問うている。

3. 結果

(1)大学生の学習成果(ラーニング・アウトカム)尺度の因子構造と信頼性

2008年3月に実施した卒業生調査(対象者657名)において、設定した全40項目の正課・正課外両効果の合計得点を因子分析(主因子法, Promax回転)したところ、「F1.批判的思考・問題解決力(6項目)」「F2.社会的関係形成力(6項目)」「F3.持続的学習・社会参画力(6項目)」「F4.知識の体系的理解力(5項目)」「F5.情報リテラシー(4項目)」「F6.外国語運用力(2項目)」「F7.母国語運用力(2項目)」「F8.自己主張力(4項目)」の計35項目8因子が得られた(山田・森, 2008)。それに基づき、今回の調査の信頼性係数(α)を算出したところ、.726～.914と高い信頼性が得られた。

(2)学習成果の各因子得点と職業満足度の関連

まず、8つの学習成果の下位因子得点と職業満足度の関連を検討するために、相関係数を算出したところ(Table), いずれの項目とも有意な関連はみられなかった。

Table 各因子得点と職業満足度の相関(N=141-164)

	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8
F2	.60**							
F3	.67**	.77**						
F4	.54**	.42**	.44**					
F5	.67**	.50**	.48**	.58**				
F6	.35**	.16*	.26**	.28**	.20*			
F7	.62**	.50**	.45**	.55**	.55**	.33**		
F8	.77**	.78**	.74**	.43**	.53**	.25**	.57**	
満足	.07	.04	.04	-.03	.15	-.03	.16	.07

** p<.01 * p<.05

(3)就業形態による学習成果の差異

次に、4つの就業形態(正規雇用/114名, 非正規雇用/27名, 無業/13名, 院生/6名)による8つの学習成果の差異を検討するために、一要因分散分析を行ったところ、いずれの因子においても有意差はみられなかった(F値=0.54～1.14, n.s.)。

(4)離転職の有無による学習成果の差異

さらに、3つの離転職経験(離転職経験有り/41名, 無し/94名, 無いが近々希望/24名)による8つの学習成果の差異を検討するために、一要因分散分析を行ったところ、いずれの因子においても有意差はみられなかった(F値=0.04～0.78, n.s.)。

4. 考察：有意差なしの意味

大学教育改革が社会への説明責任を果たすべく学習成果に重きを置いた方針を掲げているが、大学の中で様々な汎用的スキル等を身につけるといふことと、社会の中で成功する(円滑な移行を図る)ことは単純には結びつかない可能性(cf. 大学教育の遅効性(吉本, 2004)やキャリア意識の質的差異, 学習成果(概念)の状況・文脈性等)が推察され、より詳細なデータの分析・蓄積が求められる。

【参考文献】山田剛史(2008)「島根大学卒業生・修了生に対する教育成果の検証に関する調査報告書(2003年度～2006年度版)」島根大学教育開発センター／山田剛史・森朋子(2008)「大学生の学習成果(ラーニング・アウトカム)(1)―その構造と正課・正課外の差異―」大学教育学会第30回大会要旨集録集, 印刷中